

令和5年産 果樹情報（第3号）

令和5年7月11日
宮城県大河原農業改良普及センター

7月中旬は、平均気温がかなり高くなる見込みです。

- ・夏季管理を徹底し、降雨による停滞水は明きよを掘り、速やかな排水に努めましょう。
- ・収穫時期が早まっています。農薬散布は、収穫前日数に注意して散布しましょう。

1 気象経過

6月の初めは、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、梅雨入り後(6/11頃)は前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。また、月平均気温は平年よりかなり高く、県内の12か所で月平均気温が6月として観測開始以来最も高くなりました。7月の平均気温は、高い確率が70%となっています(仙台区気象台IPより)。

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

表1 7月5日(もも)及び10日(りんご・なし)の果実肥大状況(単位:mm)

樹種	品種	地点	令和5年		令和4年		平年値		平年比(%)	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	ふじ	白石・郡山	53.9	57.9	45.6	48.0	47.8	50.7	112	114
なし	幸水	角田・豊室	51.5	52.9	42.2	48.9	37.9	44.4	136	119
		蔵王・高木	45.5	45.8	36.1	39.8	35.1	40.5	128	112
	豊水	角田・豊室	54.6	52.8	40.3	43.5	37.8	41.7	144	127
		蔵王・高木	44.6	46.0	36.4	39.4	34.6	37.3	127	122
もも	あかつき	丸森・舘矢間	65.4	66.7	55.1	52.9	52.1	53.3	125	125

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 修正摘果

- ・果実肥大や果形、障害果などが区別できる時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、さび果は取り除きます。
- ・果そう葉が少ないと小玉果になりやすく、また、長果枝先端の果実は青実果になりやすいので着果量が多い場合は、優先的に摘果します。

ロ 夏季管理

果実の肥大に伴い枝が下垂するため、支柱立てや枝吊りを実施し、樹冠内部の受光体制の改善や防除効果の向上を図ります。併せて、徒長枝切りもを行います。細い枝を少し残すなど果実や骨格枝の背面に日焼けが発生しないように注意しましょう。

ハ 病虫害防除

- ・斑点落葉病、褐斑病、輪紋病

病虫害防除所の巡回調査(6/29~7/4)では、斑点落葉病や褐斑病の発生が県内各地で見られます。気温20℃前後で降雨が続くと急増する傾向があります。発病した徒長枝は取り除き、園外で処分してください。

輪紋病の果実への感染は、6月中旬から8月上旬の降雨の多い時に起こるため、い

ぼ皮病斑の多い園地では、枝幹部にも十分薬液がかかるよう予防防除を実施します。

・ハダニ類

病害虫防除所の巡回調査では、ナミハダニは平年並み、リンゴハダニは平年より多くなっています。ハダニ類は、梅雨明け後、高温が続くと発生量が急増するので、1葉あたり1頭確認されたら殺ダニ剤を散布します。除草作業と殺ダニ剤の散布日が近接する場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。また、ナミハダニは雑草から移動し加害することがあるので、隣接地の発生状況にも注意します。

・モモシンクイガ

管内では7月～9月まで発生が続くので、定期的に防除します。産卵場所となりやすい「がくあ部（果頂部）」を観察して産卵期を見極め、適期（産卵盛期）に防除してください。

（2）日本なし

イ 修正摘果

「幸水」では7月中旬が裂果発生時期となるので摘果は一時控えます。裂果が収束したところで、小玉果、変形果、障害果等を取り除きます。「豊水」ではスジ果や小玉果を中心に着果量の見直しを行い、軸折れ果を確認しながら見直し摘果を実施します。

ロ 病害虫防除

・黒星病

病害虫防除所の巡回調査(6/29～7/4)では、黒星病の発生は例年より少ない状況ですが、病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、地中に埋めるなど適切に処分しましょう。黒星病は雨滴で感染し、潜伏期間14～30日程度で発病します。

本県では現在までDMI剤（FRACコード：3）、QoI剤（FRACコード：11）、SDHI剤（FRACコード：7）の耐性菌は確認されていませんが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とし、FRACコードが同じ薬剤の連用を避けましょう。

・シンクイムシ、ハダニ類

これから夏期にかけて発生が多くなるので、ほ場内を見回り、発生初期に防除を実施します。一部殺ダニ剤で効果が低下している事例があるので、寄生種をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察してください。

・果樹カメムシ類

病害虫防除所の巡回調査(6/29～7/4)では、被害果が平年よりも多く発生しています。成虫が見られた場合は速やかに防除しましょう。

（3）もも

イ 中生品種の収穫前管理

福島県の果樹情報(令和5年7月4日発行)では、「はつひめ」の収穫始は6月29日で平年より7日早く、昨年より5日早くなったほか、「日川白鳳」の収穫始は6月30日で平年より13日早く、昨年より1日早くなっています。中生品種も収穫時期が早まると予想されますので支柱立て、枝つき、葉摘み、反射シートの設置は遅れないように計画的に行います。

ロ 病害防除

・せん孔細菌病

り病部は二次伝染源となるので、見つけ次第せん除し、園外に処分します。収穫後の9月上旬頃から2週間間隔で2回、発生が多い場合は3回防除を実施します。

4 果実生産情報（令和5年産主要果実作柄調査より）

★ ★ ★ 全般的概況 ★ ★ ★

品目：なし

令和5年6月1日時点

主産26県の栽培面積は7,643ha（前年比98%）、収穫予想量は133,641t（前年比97%）と見込まれる。

全国の収穫予想量は、190,600t（農林水産統計令和4年産実績の196,500tの97%）程度と推定され、平年比（過去5か年平均）96%と前年、平年よりやや少ないことが見込まれている。

開花日は、産地・品種によってバラツキがあるが、前年より3日～13日早く、平年より4日～14日程度早かった。

着果状況は、一部産地で降霜や開花期に降雨・低温に遭遇し、結実不良となった園もあった。

生育進度は、開花期以降の低温・日照不足により、開花期に比べ鈍化していたものの、前年・平年並で、順調に推移している。また、肥大については、品種によってバラツキがあるものの、概ね平年並～良好に推移している。

病害虫については、一部産地で、黒星病、赤星病、アブラムシ類、カメムシの発生が見られる。また、一部産地で凍霜害による傷果の発生などの影響が見られる。

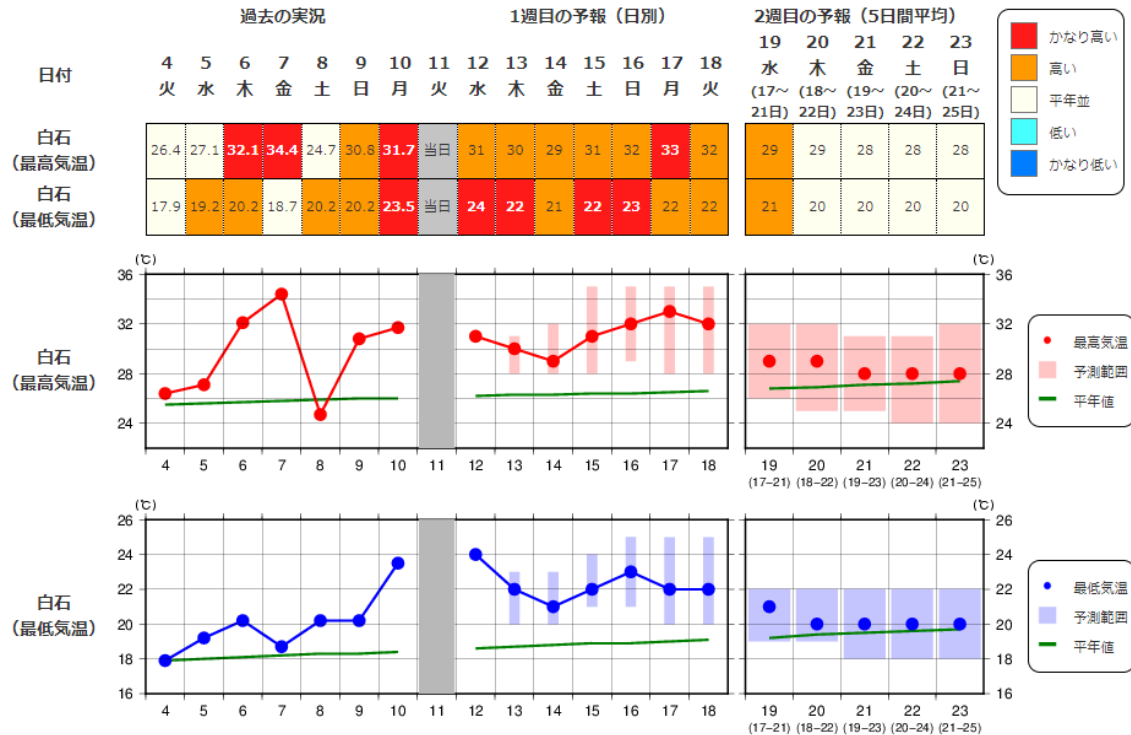
（注）青なし計と青なしの面積の品種別の合計値は、報告値に0に満たない数値があるため、一致しない。

（単位：ha, t, %）

品 種	栽 培 面 積		収 穫 予 想 量		
	本 年	前年比	本 年	前年比	
幸	水	2,820	100	44,755	98
豊	水	1,804	98	32,155	97
新	高	484	94	7,640	94
あ	き	370	104	6,301	98
南	水	192	97	3,908	96
他	の 赤 なし	633	97	11,842	97
赤	なし 計	6,302	99	106,599	97
二	十 世 紀	395	93	8,288	93
他	の 青 なし	90	106	1,389	101
青	なし 計	1,340	96	27,046	96
な	なし 計	7,643	98	133,641	97

【日本園芸農業協同組合連合会】

5 2週間気温予報（気象庁HPより出典）



農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)